

盛岡大学附属

幼稚園

平成24年度園児募集版

【お子さんの入園を控えている保護者の皆様へ】

はじめまして、どうぞよろしくお願ひいたします。

大切なお子さんの入園を控え、あれこれお考えのことと思ひます。この冊子は盛岡大学附属松園幼稚園の見た目だけでは伝わりにくい中身の部分を具体的に書かせていただきました。

まつそのようちえんってどんなところか（何を大切に教育しているのか）（子どもはとういうふうに成長していくのか）（日常の生活について）（先生のことなどなど）…ちよっとくどいかもしれませんが少しでも身近に感じていただけたらと願ひを込めて作りしました。お子さんの入園の参考にしていただけたら、とてもうれしく思ひます。

※ 同じ保育料をおさめるなら、目に見えてわかりやすいものがあつたほうが、親御さんとしては安心できる…よくわかります。でも、人の気持ちを育てる一番大事な時だからこそ、見えない部分を見ようとする大人の視点も、今の時期の「子どもの育ちを支える大きな力」となるのです。

バスとか園舎とか何か目新しいものだけでは、子どもは育ちません。大人の利便性だけでは子どもは育ちません。

「その子の幸せを願う」私たち保育者の気構えが一番大切なのです。でも、気構えをお見せすることは出来ません。伝えて感じていただくしかない。だから、こんな長い冊子ができました。最後まで読んでいただければ嬉しいです。

私たちの大切にしていること

教育目標 「キリスト教精神に基づき
健康で明るい心豊かな子どもを育てる」

(そのために大切に考えていること…それは…)

「何が好きで、何をしたくて、何を考えたのか」それを自分で

「何を伝えて、どのように行動していくのか」ということ…。

そして「行ったことについて自分でどう責任を持っていくのか」

《尊大で、子どもには厳しい願いなのかもしれません》

自分の気持ちに応じて動く、その結果を自分のものとする。(自分で自分の後始末をする) 難しいことだけれど、人間として当たり前のことで、人間だからできること・・・でも

「何をしたいのかわからない子ども」

「やりたいことがあっても我慢が優先される子ども」

「理論ばかりで、行動できない子ども」

「やりたいことばかりやっちゃって後始末のできない子ども」

とても増えています。

それが、今大きな社会問題となっています。家族や友達への暴力、登校拒否、ひきこもり、とても悲しい出来事に結びついている・・・そう思えて仕方ありません。

もっと自分に自信を持って

「ぼくはいやだ」

「そんなことはやめて」

「ぼくがわるかった ごめんなさい」

「ぼくはぼくでいいんだ」

「だれかたすけて」

そのひとことを自分の力でしっかりと話せたのなら、その子どもはもっともっと幸せに生きていけるんだろうなと思うのです。

なぜ言えなくなってしまうのでしょうか。それは、子ども達の生活全般が受身

になっているということ。受身の生活の中では、「自分の考え」を持たないままに育っていきます。〔言われることをそのままにやっておけば楽し、先生も親も自分を愛してくれるだろう〕

受身の生活だけが続き、自分の考えを持たないままにいと、気持ちを相手に伝えることさえ難しくなってきます。そうになると、自分がとても苦しい時に、誰にも気づいてもらえない、場合によっては自分さえも気がつかない、そんなこともでてくるのかもしれませんが。

そのために…

松園幼稚園では「いろいろなことに気づくこと」「そして感じること」「自分で動くこと」を土台に「自分を大切に思う気持ち」「相手を大切に思う気持ち」を育てていきたいと考えています。これは、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいています。人を愛する気持ち、命を大切にする気持ちに通じるものがあります。特別なことではありません、毎日の生活の中で小さな生き物や身近な自然に触れたり、先生や友達と過ごしたりしていく中で育まれていくものなのです。

三歳では、動き出す力を

四歳では、たくさんの出会いとつまずき、そして考えることを

五歳では、自分たちの生活を作り上げていくたくましさを

これらは目に見えないその子どもの「気持ち」です。

どのくらい育ったか測る目盛りもありません。

それとは逆に「プールで10メートル泳げた」とか、「ひらがなを全部おぼえた」とかは目に見える成長で、大人は子どもの成長を確認し安心できるものです。

でも・・・

今の時期だからこそ、目に見えない根っこの部分をもっともっと大切に、やがて大人になって大きな花が咲くように、おうちの方と幼稚園が手を取りあって、子ども達の成長を支えていく…

子育ての素晴らしさをみんなで感じ合える、そして

私たち大人も、大人として育ちあえる、そんな幼稚園

園でありたいと考えます。

3歳からは学校教育

【ズバリ3年保育と2年保育の違いについて】

3年保育にしようかな、2年保育にしようかなと悩んでいる方も多いのではないのでしょうか？どこがどう違うのか、それを考えるときに取り違えていけないのは「2年保育と、3年保育を区別して特別な方法で子どもを育てている」のではないということです。幼稚園を修了する段階ではみんな同じ

「松園幼稚園の修了生」なのです。早期教育でもエリート育成でもありません。

では、何が違うのか……それは「経験の中身」です。

大声を出すこと……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

友達と一緒に遊ぶこと……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

友達とけんかをすること……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

自分のお道具箱を持つこと……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

友達の前で泣くこと……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

いやだって大声で叫ぶこと……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

みんなと食事をする……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

「一緒に遊ぼう」ということ……3歳から経験するのか、4歳から経験するのか

**そして何よりも 友達、先生、大勢の中で暮らすこと
3歳から経験するのか 4歳から経験するのか**

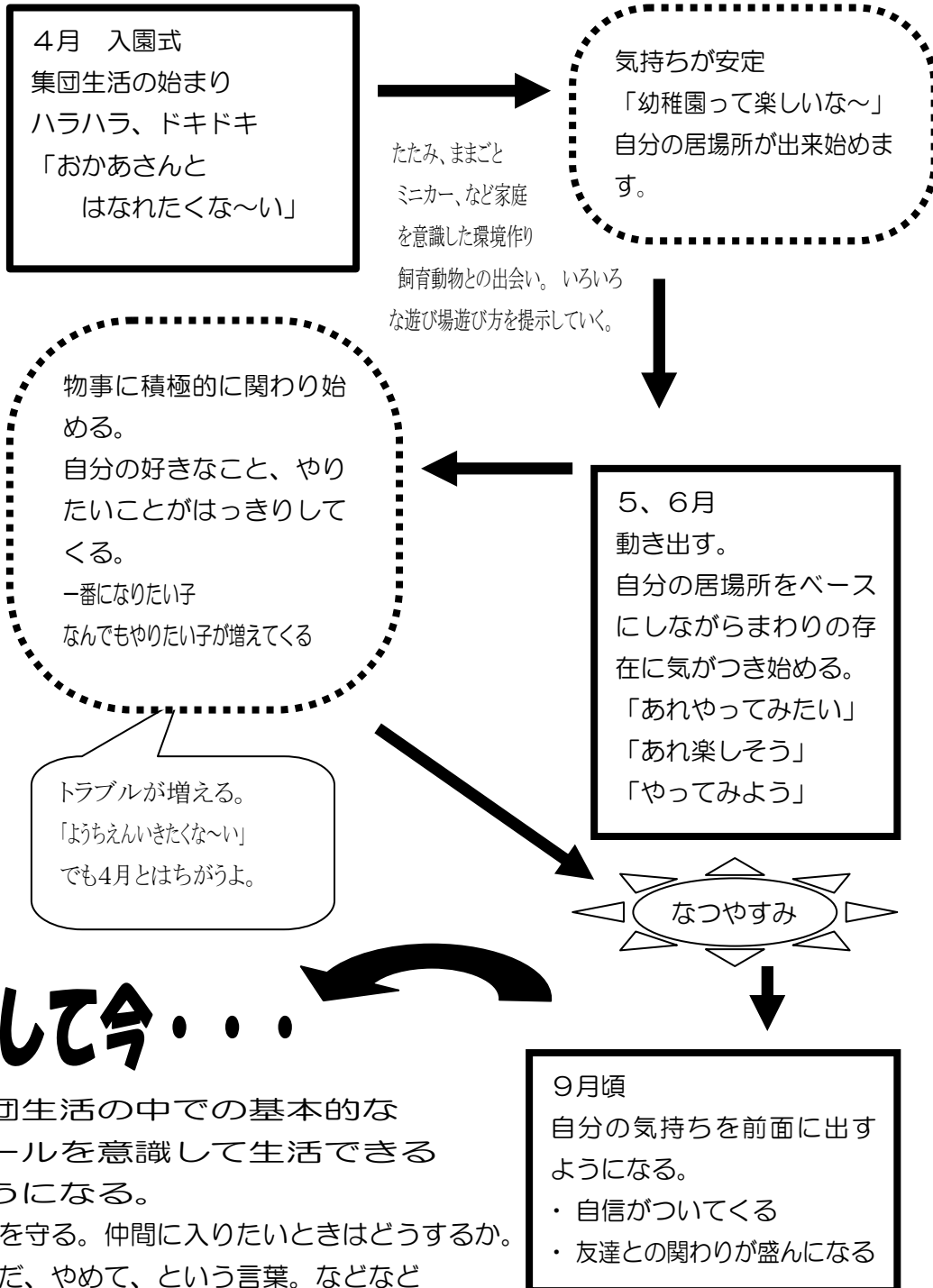
1年の間に体はもちろん心も成長します。その成長の差が、逆に4歳入園の際に、恥ずかしい、怖い、やりにくいという動きづらさとして出てくる場合もあります。3歳は自分のやりたいことが前面に出てくる時期で、**幼いがゆえに経験できることもいっぱい**あります。松園幼稚園の3歳児はまず、自分のやりたいことから始まります。なんでもアリの世界です。なりふり構わないその世界の中で3歳ならではのこをたくさん経験します。3歳のその経験が生かされて4歳につながっていくのです。4歳で自分の足で立っていく素地作りと考えればわかりやすいかもしれません。

そう考えれば、3歳のときに「心配だから…」と入園をためられる親御さん、その気持ちはよくわかります。でも「心配だからこそ、3歳のときに自分の好きなことをたっぷりできるように、力をいっぴいためこめるように」とちょっと考え方を切り替えてみるのもいいかもしれませんね。

※ 実際に3年保育入園で「早すぎた」という保護者の方の声は1度もありません。

具体的に子ども達はどうかわっていくの？

4月からの新入園の子ども達の歩み〔育ち〕



幼稚園と保育所と何が違うの？

幼稚園と、保育所とどこが違うの？よく聞かれる質問です。

幼稚園に通っていても、保育所に通っていても、**子どもの本質は変わらない**ということをお念頭に置いてください。

両者の違いはシステムの違いです。

《保育所とは》

児童福祉法に基づいて保護者が疾病や労働などの理由から、昼間、養育できない学齢以前の乳幼児を保育する児童福祉施設。

《幼稚園とは》

小学校入学前の幼児のための教育機関。満三歳児入園、三年・二年・一年保育の課程があり、教育基本法によって教育体系の中に位置づけられている。

保育所は児童福祉施設

幼稚園は教育機関

なのです。

ここ数年、保育所に入所する子どもが増えているのは、共働き家庭の増加により、子どもが預けられる時間がより長い「保育所」への社会的必要性が高まってきたからなのです。その状況を受けて、近年幼稚園でも、「どの子どもにも等しく教育をうける機会」を設けようと保育時間の延長「延長保育」「預かり保育」という形での対応が進んでおります。

松園幼稚園でも、「まつそのキッズクラブ（MKC）」と称し、預かり保育を実施しております。詳しい内容については、後頁をご覧ください。

忙しいお父さん、お母さんをバックアップします。
保育所と同等の保育時間で教育をいたします。

早朝保育 7：30から（無料）

預かり保育 19：00まで

（利用形態は様々ですのでご相談ください。）

松園幼稚園 Q & A

大学附属のようちえんって…？

「盛岡大学」には児童教育学科、「短期大学部」には幼児教育科とあって、将来教員を目指す学生さんが通学しており、松園幼稚園もその勉強の場の延長線上に存在しています。幼稚園教諭免許取得の必須条件である教育実習場としての役割も担っているのです。国家資格を取得するわけですから、その教育も文部科学省で示されている「幼稚園教育要領」の内容に添った形で行われます。

大学の幼児教育の専門のスタッフと幼稚園現場の先生たちとでよりよい幼児教育を常に考え、大学の専門知識を現場で生かしていくように保育を進めております。また、3年生は授業の一環として幼稚園の行事に参加したり、4年生では、ゼミの研究やボランティアとして幼稚園に足を運んだりする等、園児と学生の交流も盛んに行われています。

幼稚園、園児、保護者、大学がそれぞれの立場で役割を果たしながら、ひとつの輪として有機的につながっている、そんな幼稚園です。

学生さんのお勉強って？ ノートを片手に子どもの行動記録をとる・・・

なんとなく、子どもを研究材料にしているの？・・・って思われそうだけれど、決してそうではありません。子どもは私たちにいろんなことを教えてくれます。特に先生を目指す学生にとって幼稚園は、まさしく「教わりの場」なのです。「この子は私に何を教えてくれるのか・・・」「この子は私に何を示してくれるのか・・・」 子どもの問題点を探るのではなく、子どもを通して、自分の課題を見つけ出す・・・そんな勉強の仕方をしているのです。研究材料？とんでもない。研究材料は「まさしく先生になりたい自分」なのです。

大学附属園だから・・・具体的にこんなこと

子育て講演会 盛岡大学附属高等学校 野球部 澤田真一先生

皆さんもご存じの、岩手県では高校野球の指導に一躍名を広めている澤田元監督が、幼稚園に講演をしに来て下さいました。ご自分の子育てや野球部員の指導など、豊富な経験の中から「子どものやる気を育てる。」というテーマで、中身の濃い、熱いトークで参加者の心をわしづかみにしていました。

盛岡大学 スライドシアター上演 児童教育学科 深沢教授ゼミ

大学生がいっぱいやってきて、手作りのスライドシアター上演会をします。作品はもちろん、効果音、セッティング、小道具等々、日々の授業の成果を子ども達の様子で評価されるので学生も真剣です。

朝から映画館と化した幼稚園で、お話の世界を楽しみます。

幼稚園がおおきなキャンバスに 短大幼児教育科 長谷川教授ゼミ

ちゅうりっぷ組（3歳児）のトイレをもっと明るく、トンネルをもっと楽しく・・・と素敵な壁画を描いてくれました。ちょっと古い園舎だけど、その分手も加えやすいわけですし、時折変身する幼稚園に子どもたちは大喜びです。

保育ボランティア 学生参上！！

お泊まり会、運動会、おひさままつり等、園行事がある毎に「お手伝いさせて下さい。」とってくれる学生が多くなりました。まさに学生にとっては実学の間。子ども達にとっても沢山人とかかわることが出来る大切な経験。先生達も大きな刺激をもらっています。

若いうち素晴らしいですね。

階段教室で「大学生気分！！」

夏休みのイベント「ちびっこだいがくせい。」で、盛岡大学に出かけました。大学の階段教室で大きなスクリーンを見ながら迷路の謎ときにチャレンジした後、大学探検で理事長室へ！お宝をゲットした後は昼食を学食で食べ、中庭でソフトクリームをペロリ！大学の広い敷地内を堪能しました。

子育て講演会 盛岡中央消防署 松園出張所 所長代理 藤田 成輝さん

いつも幼稚園の避難訓練の時にご指導をいただいている松園の消防署の消防士、藤田成輝さんに「子どもを地震から守る」と題して、現場のエピソードを交えてのお話やビデオ視聴を通してわかりやすくお話ししていただきました。

「おひさままつり」大学生とのコラボレーション

幼稚園の秋の大イベント「おひさままつり」（幼稚園公開）に、盛岡大学児童教育学科の3年生、約70名がイベントにて参加します。いろいろなブースを作って「親子で楽しめるおまつりを。」と、5月から着々と準備を進めています。皆さん、遊びに来て下さいね。

給食はどうなっているの？

完全給食です。月曜日から金曜日までは給食。午前保育はおやつ。

お弁当の日は年に数回です。(こども科学館やりんごもぎ遠足に行く時等)

月に一度、給食担当の教諭と栄養士とで給食に関する会議を設け、[食材、メニュー、色合い、調理方法]について話し合いをしております。

メニューについては、子どもたちが大好きなカレーライス、二色ご飯、鶏唐揚げなどはもちろん、あまり食べる機会の少ないひじきの煮つけ、菜飯など、できるだけいろいろな食物に出会う機会を作っていきたいと思っています。

(食の細かい子への対応は？)

中には食の細かいお子さんもいるかもしれませんね。食事の指導について、基本的には食事は楽しいこととして捉えています。もちろん好き嫌いはない方がいいでしょう。ただ、食べることが苦痛にならないよう充分配慮しながら食事指導にあたっています。

(アレルギー等の食事療法への対応は？)

こちらも月に1度、担当教諭と栄養士、お家の方との3者で具体的にメニューを見ながら、食材について、情報交換と対応の確認を行っています。アレルギーなどで食事療法をおこなっているお子さんにも安心して食べられるように配慮しています。遠慮なくご相談下さい。

附属って高いのかな・・・

保育料は、19,900円[3歳児は20,400円]です。この中には、給食費が含まれています。他の私立幼稚園さんと比べて「特別高い」という訳ではありません。盛岡市近郊の各幼稚園と比較しても、そんなに大きな差はないはずです。

今の時代、物に対する価値がどんどん多様化しております。少子化に伴い、園児募集のために保育料を安く抑えているケースもあるのです。そこで、私たちは子ども達のために、どのような価値観を持って子育てをしていけばいいのか、慎重に考えていく必要があるのです。

保育料に関しては、子どもの教育のために使用する教具、教材は不足なく取り揃えています。いただいた保育料それ以上の教育を、責任を持って行っていく所存です。

制服があるけれど…

登降園の時、行事の時などに着用します。幼稚園に着いたら、汚れを気にせず元気いっぱい遊べるように着替えをします。

制服にかかる諸費用

ブレザー、半ズボン、スカート、長トレパン、短パン、幼稚園カバン

絵本カバン、帽子〔冬、夏〕、園章、

全部まとめて、3歳児男の子の場合 20,000円位です。〔女の子は約1,000円高〕

※注文の数によって多少の変動があります。

- ・ 卒園したお子さん同士で譲り受けたりしているようです。(新園章になりましたが移行期間を設けております。詳しくは冊子の後項をご覧ください。)
- ・ リサイクル制服の取扱いもしています。ご相談ください。

制服について (母の声…)

「入園するときは、確かに出費は重なるけど、年間通して着れるし、今日はなにを着せようかしらって、迷うことがないから楽よね。」

「結婚式とか、正装にもなるからね。」

「いきたくないって駄々をこねても、制服を着ると気持ちが切り替わるの」

「なによいも、着替えが身につくのがうれしい」

スクールバスはどうなっているの？

利用料月額 4,000円～4,500円 運行距離によって区分されます。

【スクールバス運行範囲】

松園全域から、緑ヶ丘小学校学区 高松小学校学区

※できるだけ保護者の方々の要望に配慮しながら運行いたしますが道路規制や渋滞道幅などの都合でご協力をお願いする場合もございますのでご了承ください。

バスコース 1台のバスが1便 2便 計2コースで運行します。

平成23年度のコースです。

1 便 岩脇→黒石野→緑が丘→高松→三ツ割

2 便 北松園→小鳥沢→東松園→西松園

預かり保育ってなあに？

私たちは「まつそのキッズクラブ」
通称「MKC」と呼んでいます。

松園幼稚園の通常の保育時間は9：00～14：00となっております。
(8：30～9：00までの登園)

預かり保育とは、通常の保育時間前と後

(7：30～ 9：00) 早朝保育
(14：00～ 19：00) に保育を行うものです。

利用形態は	1、早朝保育	利用料	無料
	2、スポット利用	日額	500円
	3、長期休業中スポット利用	日額	1,000円
	4、月利用	月額	8,000円
	5、複数月利用	月額	7,000円

※同時在園者の割引制度もあります。

一日の流れ

14:00 通常保育終了
14:30 布団を敷いてお昼寝
15:30 おやつ
16:00 あそび
19:00 お迎え終了

こんな時に利用すると便利です。

- ・お仕事で**14:00**の保育時間終了の
迎えに間にあわない。
- ・お兄ちゃんお姉ちゃんの学校行事で
迎えがおそくなる。
- ・下の子の**3歳児**検診と一緒に連れていけない。
- ・週**3回**家族の病院への付き添いのため
……などなど

預かり保育は、みんなより長く幼稚園で過ごします。だからこそ、出来るだけ温かい家庭のぬくもりを大切にされた教育を心がけています。また、年齢差による縦割り保育の良さも活かしています。昔、よく見られた遊びの縦社会が預かり保育にはあり、その中で自分の役割について気付いていくたくましさが増えていくという、教育的な意味も多く含まれています。

先生たちってどんな人？

園長 石川 悟司 盛岡大学助教

頼りがいがあるって、お母さんたちとのコミュニケーションもばっちりです。何でもご相談ください。

教頭 高橋 裕子 満三歳児クラス担当

たんぼぼ組 心は慎重派（運転中は話しかけないでね！）動きは大胆！？

つばき組 廣瀬 洋子

いつも元気はつらつ。いつまでも若い（？）気持ちで動きます。

さくら組 伊藤 恵

一番若い。そしてこだわり派。日々悩みを抱える松園幼稚園のアイドル。

ちゅうりっぷ組 明戸 美也

ほんわり笑顔で子ども達を優しく包みます。新米ママさん！！

ちゅうりっぷ組 波多野 実花子

子ども達と遊んでいる時の笑顔が素敵です。縁の下の力持ちです。

運転手 佐藤 サト子

給食とMKCの頼りになるおばちゃん。二人のお孫さんがいます。

以上が松園幼稚園のスタッフです。

みんな個性的な人ばかり、言いたいことが言い合える関係

です。それぞれの良さが松園幼稚園を動かしている。

そんな職場です。

先生だけじゃないよ… 幼稚園の小さな仲間達…

松園幼稚園には、小さな仲間たちがいます。

十 姉 妹 2羽…ピヨピヨのすけ☆りぼんちゃんです。命名はちゅういっぶ組の子ども達です。巣の中に仲良く2羽で入っていたので、これから二世が生まれるのが楽しみです。

だんご虫…生息地 園庭 数多数！

金 魚…職員玄関のところで少しずつ大きくなっています、どこまで大きくなるのかな！？…たのしみです！？

グ ミ…幼稚園の入口と下の園庭に向かうところにあります。といさんのごはんにもなります。

さくらんぼの木…今年は、さくらんぼの実を木の下に埋めました。たくさんの苗木が育ちますように…詳しいことは「いも通信」にあります。

キ ウ イ…昨年の収穫は今ひとつ…今年は豊作の予定です。

畑のさつまい…秋にみんなに食べられるのを待っています。

ミニトマト…いっぱいなるんだけど、いつもないんです。きっと誰かが食べてるに違いない。

その他の畑作物(枝まめ、とまと レタス、きゅうり、じゃがいも、とうもろこし)

今年はきゅうりが大豊作。ぐねぐねきゅうりに巨大きゅうり…サラダにして、いっぱい食べました！

《生き物を飼うこと、植物を育てること》

とかく自分中心な生活を送りがちな今の時代。心からかわいいと思うこと、何かを大切に育てようとする気持ちを子どもたちに確かな形で育てていくためには、とても大切な経験ではないかと思います。自然物ですから、どんなに大切にしているでも死んでしまったり、枯れてしまったりこともあります。でもそのひとつひとつが自分以外の何か心に寄せる尊い経験になるのです。

最後に

お子さんの幼稚園を選ぶ時に…是非考えて下さい

この幼稚園に入れた決め手はなんですか？という問いに

「子どもが気に入ったから」

「保育料が安いから」

「施設が新しいから」

「保育時間が長いから」

などなどいろいろな

答えが返ってきます。

小中学校は地域、高校・大学は本人の希望で決められていきます。幼稚園だけが、唯一「親がえらぶ学校」です。きちっとした視点、考えで入れたいものです。

幼稚園は、はじめて集団生活が始まる場所です。親も子どもも初めてのことがいっぱいあります。楽しいこともあるし、そうでないこともあります。

友達とけんかした・・・お友達がなかなかできない・・・幼稚園に行きたがらない・・・親の悩みは尽きないものです。

その時に、その悩みを抱え込むのか、それとも一緒に考えてくれる仲間に相談するのか。それによって、親である（私）の気持ちの在りようも変わってくるものです。

親として悩みを抱えた時に、それを相談できる人との距離がどれだけ近いのか。それがとても重要なことなのです。親（私）の悩みを解決してくれるのは、お金でも 新しい園舎でも 時間でもありません。要は、幼稚園の先生とどれだけ太いパイプを作り上げるかということです。親と保育者のパイプが太ければたいていのことは、解決できます。

お子さんの入園先を考える時に

「この幼稚園の先生たちは、

私とどんなつながり方をしてくれるのだろうか」

ぜひそのことを考えてみてください。

幼稚園に関わる方々の声です。

ゆりちゃんのおかあさんからいただきました。

一番目の子である娘を幼稚園に通わせたいと思い、まず未就園児サークル「いちごんぼ」に参加させてみようとお邪魔したのが、こちらの幼稚園との出会いです。

娘以上に緊張していた親である私を感じたことは、迎えてくれた先生方の笑顔と娘に接してくださる姿の温かさと和やかさ。この雰囲気のある幼稚園なら娘はきっと大丈夫と思ったことを今でもよく覚えています。

入園後も担任の先生をはじめ、園長先生や他のクラスの先生方が登園や降園の際など、ことあるごとに娘に声をかけてくださる姿を見て、毎日こうして先生方全員が園児一人ひとりに心を寄せて接してくれているんだという安心感を強く抱きました。

また、こちらの幼稚園は実習のための学生さんがいるため、色々な方との交流ができるのも人との関わりを学ぶ上で子ども達にはいい機会になっているのではと思っています。

園庭から見える美しい岩手山や周りの景色。

園の畑には園児さんたちが大切に育てているさつまいもやとうもろこし、じゃがいもなどの自然の実り。

園の中に入れば、園児さんたちがきらきらと目を輝かせ、いきいきと伸びやかに活動している姿。

こうした温かな雰囲気と園児個々を大切に育む幼稚園のお蔭で、娘は色々なことを吸収し、すくすくと成長し楽しく幼稚園生活を送ることができています。

むつきくんのおかあさんからいただきました。

睦希はみんなと一緒に何かする、決まったことをするというのが苦手な子でした。

イヤ!となると、泣いて暴れる・・・集団生活は難しいのかな・・・

幼稚園はちゃんと選ばなくては!と、案内のきた未就園児サークルには全部一回は行ってみました。

何処に行ってもみんなとできたのは、おやつを食べることだけ。やってみましょう!は体操も手遊びも全部できませんでした。

こんな睦希を預けるには先生が大事!と思ったのですが、どこの幼稚園も未就園児担当の先生は対応がいいのですが、在園児担当の先生を見ると元気がなく、楽しそうに見えませんでした。

でも松園幼稚園の先生はみんなが楽しそうで明るくて元気でした。園長先生も楽しく明るく、フレンドリー。睦希もトンネルと滑り台が気に入っていたので、松園幼稚園に決定。

入園式では私から離れず、

年少の運動会では、ゆうこ先生に抱っこされて入場、

できること大会では、カーテンに隠れて発表・・・

そんな睦希も今年、年長になってお泊り会に参加。

運動会のリレーでは、アンカーを務めることもできました。

友達と一緒に力を合わせて一生懸命できるようになった睦希の成長に感動です。

あと少しの園生活、更に楽しい思い出が出来るように毎日、先生やお友達と過ごしてほしいと思います。

ゆいちゃんのおかあさんからいただきました。

主人の仕事の関係で、こちらに引っ越してきたのが3年前の4月でした。幼稚園選びに関して、近隣の幼稚園に下見に行っている暇もなく、入園式も近いことから急いで幼稚園情報を得なくてはと気ばかり焦っていました。そんな中、ありがたいことに同じ官舎に住む松園幼稚園に在園児を持つお母さまからの生の情報を得ることが出来ました。

松園幼稚園ならではの良さ(型にはまった保育ではなく、子どもの可能性を信じ、心の保育を中心に一人ひとりを大切に、無理のない保育を行っていること)や非常に信頼のおける先生方がいらっしゃることを熱く語って下さいました。それは、まさに私が理想とする幼稚園でしたので、即入園を決めました。

入園してみて、娘は新しい環境の中、不安と緊張でいっぱいスタートでしたが、園の心のこもったアットホームな雰囲気と、先生方のあたたかいまなざしのきめ細かい対応で、徐々に自分を出せるようになっていきました。園がお休みの日でも幼稚園に行きたいと何度も口にしたり、休み明けの登園日が待ち遠しくてたまらないといったような感じでした。

年中になって、おどおどしていた時期から周りが見えてきて、色々なことをしてみようと自分から動き出すようになり、伸び伸びとしてきました。色々なことにチャレンジしながら「楽しい、面白い、良かった」の満足感や「やればできる」の達成感などの気持ちが養われていきました。

年長になって、災害の影響から子どもたちが育てている農作物への放射能の心配がある中、子どもたちの間で「いも会議」という話し合いが行われるようになりました。

今までは、あまり自分の思いを積極的に前に出すというよりは、周囲のお友達の様子を伺いながら過ごしていました。でも、いも会議をきっかけにその問題を自分のこととして、見えないもの、実際にどうなるかわからないものを想像しながら家族に問いかけ、意見を聞いた上で、自分なりに考えた答えを周りに伝えようとする姿勢が見られるようになりました。それは何より、先生方が子ども達一人ひとりに耳を傾け、決して否定することなく、気持ちに寄り添い、様々な疑問を投げかけながら想像する力、想定する力を引き出そうとして下さったおかげでもありました。

親の私にとっても、今までは子どもに何か問いかけた時、聞いて答えがすぐに出てこない「〇〇でしょ」と言いがちになっていました。考える時間を十分に与えずに娘も私の答えを待っているといった感じでした。これから先、様々なことを自分の力で考えて進むということを日常のあらゆる場面で意識させなければと考え直し、改めるよいきっかけとなりました。

今では、これにとどまらず、生活、遊び、活動の面で場の状況に合わせて自分の考えをもって行動するようになり、確実に生活の糧となっていると思います。

松園幼稚園では、親子共々育ちあえる場で、充実感にあふれる生活が送れたことに大変感謝しております。

「あんなことこんなこと」

「ちょっと考えてみました」

日常の保育の中で、ふと疑問に感じたこと、保護者の皆さんの声
子ども達の生々しい育ち などなど不定期ですがお手紙でお知ら
せしています。その一部をお伝えします。

あんなことこんなこと

《午前保育 13時降園 普通保育ってあるけれど 13時降園って必要?》

結論から言いますと「かなり必要」です。たかが1時間されど1時間なんです。午前保育は「おやつを食べたら降園」、「13時降園は給食を食べたら降園」普通降園は「給食を食べてちょっと遊んだら降園」となります。降園時間を3段階に区切っているのは主に新入園の子ども達への配慮です。新しい生活の流れに添っていくために、気持ちを張って、体力を張って過ごしている子ども達。園での生活時間が長くなるにつれ、子ども達の疲れも目に見えてくるのも事実です。一方で、子ども達の生活の流れの節目もありまして、おやつ時間、給食の時間が最たるものです。「おうちへ帰りたい」という子を励ますときに、「お給食を食べたらすぐ帰れるよ」「ご飯食べたらお母さん迎えに来るよ」そのような具体的な目安を話す以外に子どもってがんばれるものです。そう考えたときに「給食を食べたら降園」と「ちょっと遊んだら降園」の違いはたかが1時間であっても、その子にとっては……おわかりですね。

大きい組さんは園生活になれているぶん、「あんまり関係ない」と思うでしょうが、それは違います。幼稚園全体が、新しい仲間をそうやって無理の無いように迎えようとしている。特にこれから幼稚園を引っ張っていく「大きい組さん」にはこのことを理解してほしい、大きい組さんには、自分のことだけではなく、大きな流れも感じられるそんなリーダーになってもらいたいなど、いろいろ願っているわけです。

《長期休業前の午前保育は何のためにあるの?》

ほとんど1日~2日ぐらいでしょうか。以前は一週間ぐらいの時期もあったのです。年々少なくなってきましたが、ここ数年このくらいで落ち着いています。ただいたずらに午前保育にしているのではなく **3つの意味**があります。

1、園行事の日程の絡み

学期末に大きな行事があります。夏休み前はお泊まり会。冬休み前はクリスマス会があります。

2、幼稚園務の都合

幼稚園の都合といえば語弊があるかもしれませんが、特に春休み前がそうです。修了・進級児の書類整備があります。(学校のように成績表とは行きませんが、子ども達の一年間の育ちを一人ひとり「指導要録」という書類に書いておくのが義務付けられているのです。)あとは、園行事の絡み……で、子ども達に思い出深い、楽しいと思える行事にするためにはそれなりの準備時間が必要になるのもこれまた事実です。

3、長期休業に向けての生活リズムの調整

園生活と家庭生活の流れは当然違います。私だって休みの日はだらけた日を送りがちです。急激に生活のリズムを変えるのは人間にとってよくないことです。子どもならなおさらです。少しずつの助走期間があってしかるべきでしょう。その間、おうちの人と一緒に子どもの生活を『長期休業の望ましい生活モード』に調整していく期間にしていだきたいと思います。長期休み明けに午前保育が2、3日あるのは、同じ意味で「全開バリバリモード」で新学期をスタートするための調整期間なのです。

《2便バスの時間が遅くない遊ぶ時間がないのでは?》

確かに8時半の登園開始から約1時間も差はあります。おうちの方が心配されるのも理解できます。私たちもそのことを十分に踏まえ、徒歩通園のお迎え終了後約1時間は2便バスの子供たちの遊びを大切にするように心掛けています。もしご心配であれば、ご相談ください。

《遠足の行事が小学校との行事と重なったので日にちをずらしてもらえない?》

年間の行事予定は前年度のうちにたてます。これはどこの幼稚園、学校も同じです。この時期に各学校、幼稚園、保育所と行事がぶつからないように調整しあうということは物理的に不可能であることをご理解ください。

実際、5月のバス遠足と、小学校さんの『ロードレース大会』が重なってしまいました。応援に行きたいという保護者の皆さんの気持ち、応援に来てもらいたいというお兄さん、お姉さんの気持ちも十分に察しがつくところです。可能であれば日程変更も……と思うのですが、ただもう一方で、お仕事をされる方が増え、年度初めに幼稚園行事を聞いて勤務のシフトを調整される方も多いのも事実です。状況が許されるのであれば臨機に対応したいとは思いますが、それに伴ういろいろなことを考えていけば、慎重にならざるを得ないこともご理解いただければうれしいです。

《遠足はどこに行くの?》

遠足の行き先を決めるのにはいくつかの条件がありまして

- 1、 危ない場所ではないか
- 2、 トイレがあるか
- 3、 見渡せる場所か
- 4、 適当な集合場所を確保できるか
- 5、 移動時間

などという条件で検討しています。行きたいところはいっぱいあるのですがすべての条件を満たす場所ってなかなか無いんです。どこかいいところがあったら情報をください。

《制服があるって、すぐに遊びだせず大変じゃないですか？》

確かに賛否両論あります。制服にしてよい面、そうでない面があります。現在制服がある事実を受けて、私たちは「よい面」をどう伸ばし「そうでない面」をどう克服していくのか、考えながら保育にあたっています。

ネックは「着替え」ですね。「着替え」の習慣がつくとうことはいいことです。ただ新入園児の最初の時期はほとんど『自分から』というのは望んでいません。先生がほとんど手伝っている状況です。やらなければならないことばかりでさっぱりあそべないというのはよくないことですよね。でも不思議なことに子ども達は、「遊ぶため」に自分から早く着替えるようになるんです。友達の遊んでいる様子を見て、自分も早くって思うんでしょうね。それからボタンひとつかけられるようになると必ず『みてみて』って来るんです。できるようになったことを実感できるひとつの素材なのでしょう。

それから、しばらく着替えないで様子を見てという子がいるんです。ポーっとしているようにも見えるのだけど、実はその「ポーっ」としている事も必要なことかなって。（もちろんはじめから最後までポーっとしてるのはどうかと思うけど・・・）すぐに遊びだす状況も大切だけど、活動と活動の合間のワンクッションと思えば、その子なりの動きを保障するいい緩衝材にもなってるのかな、「着替え」ひとつとっても、いろいろな意味があるのかなと思うようになりました。

《2番目の子供からは保育料は安くなるんですか？》

一番答えづらい質問です。経営にかかわることですから…。現在の状況は同時在園の場合、スクールバス代が1300円（4000円の場合）になります。また、後援会費も1世帯ひと月500円となっています。

保育料に関しては減免制度はありません。理論上から行くと、スクールバスは「同じ場所」に行くという意味で、かかる費用は減免可能ですが、保育料となると「その子に関わる」という意味で、一人ひとりに費用がかかるので減免の筋が出てこない・・・ということなのです。もっとわかりやすく言うと、同時在園だからといって、兄弟だからといって、同じようにかかわることはできません。その子なりの関わり、アプローチが必要になり、バスの「同じところで乗り降りする」という解釈は成り立たないのです。他の幼稚園さんを見ると、同時在園の割引制度を設けていらっしゃるところが多いようです。現実、そのようなところで競合していくのは辛いところもありますが、私たちは、兄弟であろうがそうでなかろうが、一人の園児としてしっかりと見ていく、そのための教材や教員の関わりとして、いただいた保育料なりの保育をしていかなければならないと考えています。

以上のことをご理解いただいて、今年度も同時在園の方が数名おります。

※ 参考までに…

入園料は30,000円ですが、同時在園の場合、次のお子さんは半額の15,000円となります。

就園奨励費交付額は兄弟同時在園の場合、交付該当となれば交付金額が上がります。詳しくは入園パンフレットにも掲載されています。

分からないことがありましたら、幼稚園まで。

《誕生会はどんなことをやるんですか？》

誕生会は年に一度、自分が主役になれるうれしい会です。どの子も本当に心待ちにしているようです。で、どんなことをやるのかといいますと、まずホールで全員でお祝いします。大きい組さんから誕生児が名前を呼ばれステージの上に座ります。誕生カードをもらって、インタビューを受けたり、みんなでお祝いの歌を歌ったり、そのあとにその月ごとのお祝いの出し物をします。その内容は未定ですが、楽しみにしてください。

誕生児保護者の方にも参加していただきます。誕生会終了後は各保育室で一緒に会食をします。（すみません 後ほど会食費300円を集金します。）

あんなこと　こんなこと

「友達ってなんだろ」

このあいだ、青いトンネルで数人の子ども達と話をしていました。

そしたらAちゃんが一言

「あのね、せんせい、Bちゃんとあそんでいることをお母さんに話さないでほしいの…」
—なんで？

「だって、(いやなときはむりしてあそばなくてもいいんだよ) っておかあさんがいうから…」
—そうだよ。いやなら無理して遊ぶことないと思うよ。

「でもね、Bちゃんはときどきいなくなるけど、でもね、一人でいるのはいやだし、いっしょにあそびたい。でもおかあさんもしんぱいしてるから…」
—いいよ。だれとあそぶのかはAちゃんがきめればいいことだから、先生はなんともおもわないし、だれにもいわないよ」(お手紙には書いてますが…ごめん)

どうやら、Aちゃんは、Bちゃんが大好きで一緒にいたい、でも「時々いなくなる」という嫌な思いもしているらしいのです。その晴れない気持ちを家に帰ってお母さんにお話する、お母さんの「いやなときは無理して遊ばなくてもいい」というのもよくわかる対応です。

でも、気になるのは、Aちゃん自身の悩みですね。お母さんは遊ばなくてもいいっていうし、でもそう簡単に割り切れるほど友達への思いは萎えていないし…かなり悩んでいる心のうちが伝わってきました。

子どもにとって、大好きなお母さんの言うことが一番価値のあることです。少なくとも幼稚園に入る前まではそうだったはずですが。でもその価値ある一言を乗り越えて「お母さんには話さないでほしい…」

どうお感じになりますか？　結構　親として傷つく言葉ですよ。

私はこのAちゃんの動き、言葉にAちゃん自身の「まじめな気持ち」「優しい気持ち」「あたらしい世界へ踏み込もうとする勇気」を感じました。

自分のことをいつも真剣に考えてくれている親の話をまじめに聞き守ろうとする気持ち、大事に大事に育ててくれたお母さんに心配をかけたくないという優しい気持ち、そして何よりも、お母さんをちょっと置いといて、いま自分の目の前にある(楽しみ、喜び、不安、悲しみ、怒りその他もろもろを含めた、

よくわからないけど、はずせない) 新しい世界へ踏み出そうという力強さを感じました。

友達…相手は人間です。自分の思い通りになる存在ではありません。嫌なら遊ばなければいい・・・その通りだと思うのです。3歳でも4歳でも5歳でもよく見かけるのですが、しょっちゅうけんかしてるのに、いつもそばにいる。そして性懲りもなく何かやらかしている。そして先生から、他の子から怒られる…なんでだろうっていつも思います。目には見えないけれど、人と人が引き合う力が、特に子ども同士ではあるみたいなんです。

自分の思うように生きることはとても大切なことだと思います。しかしながら幼稚園という小さな社会でも自分の思うように行かないことはいっぱいあります。どんなにつまずいて、嫌な思いをしても、その子がそれでもいい、ひとり嫌だ、友達とつながっていたいと思う気持ちは、その小さな社会で自分の世界を作り始める原動力となる大切な気持ちになるのだと思います。

親からしてみれば、見えにくい分不安になる部分でもあるでしょう。でも、大好きな親にも先生にも、あまり知られたくない、その子自身の世界、友だちとの付き合い方が生まれてくるのも事実だし、それが「自立」へ向けての正常な第一歩だと思うのです。

その中には、一方的だったり、乱暴だったり、相手を傷つける言葉を話したりという場面もあります。言われたほうも悲しい気持ちになるし、言っちゃったほうも、次第に友だちを遠ざける結果になってしまう。一緒にいたいけど、い続けることの難しさは、子どもなりにしっかり感じることはできます。

大人の役割として、その時のその子の気持ちのありようはどうか…ゆっくりわかるように整理してあげること。そして、次に自分がどうすればいいのか…その子自身が決められるようにすること…そのことが大切なんだろうなと思います。

「友達」は自分がその社会で自立していくための足がかりになるものだと思います。いっぱいいろいろな友達と出会ってほしいし、喜んでほしいし、悲しんでほしい、その中で、『自分はこうしたい』『君はどう?』という気持ちを堂々と言い合える人間関係を作ってもらいたいと願っています。

ちよーっと考えてみました。

【我が子とまわりの子】

最近はいろいろな情報が豊富で、子育てに関する情報も、本やメディア等でも盛んに取り上げられています。サークルでも実際にたくさん友達と接しながら、我が子の成長の様子を気にする…といったこともあると思います。「〇〇ちゃんはこんなにお話できるのに、うちの子は…」とか「みんなと一緒に同じことができない…」とか、逆に「なんでこんなにおとなしいだろう…」などなど心配は尽きないものです。まわりの子の発達を見ながら我が子のどこかに遅れている部分がないかどうか気になるものです。親として当然だと思います。(私もそうでした。)ただ、気をつけなければならないこともあります。

ひとつは、親だって一人ひとりの価値観は違うもの、「これで善し」と思うことも違うのです。自分が悩んでいても、隣の人にしてみればうらやましいことだったりするものです。そう考えれば、「正しい発達」「正確な発達」などというものは案外いいかげんなものに見えてくるし、そう考えると結構気が楽になるものです。

それから、他と比べる親の視線というものは、どうしても『早く発達している子』が比較の対象になっているのです。幼児期の発達は個人差もあるし、伸び方の幅も大きいので、まわりの子と比較することは本当は意味のないことかも、と疑ってみる価値は大いにありそうです。

【まなざし】

いろいろなはっきりしない情報に惑わされると、ついつい我が子に期待しすぎたり、期待に沿わないその子の状況に不満をもったりしがちです。それが「親の気持ちが子どもから離れていくきっかけ」になるのです。なかなか気がつきにくいところですが、そのような親の気持ちのゆれが、次第に一般的な情報や、廻りの評価を気にするようになり、我が子を見失い、急がせたり、無理をさせたりすることにつながってくるのでしょう。

実はそれって子どもにとってはすごく悲しいことなのです。たとえ遅れていても、他と違っていても、子どもは親を頼るしかないので。その親が子どもの味方にならなければ、子どもは孤立し、その子の持つ「よさ」「人としての魅力」はどんどん削られていくことになるんだらうと思います。どんなことがあっても最後は親が「自分を支えてくれる、味方でいてくれる」そんな気持ちがあるから、自己主張もできるし、なんでもやってみようとする意欲も生まれるのだと思うのです。

あやふやな情報・評価よりも一番正確なのは我が子の姿・・

そっちのほうかずーと価値あるものです。

反抗する2歳児（親の本音）

【相談】

◆2歳8か月になる一人っ子の娘は、ほかの子のおもちゃを取り上げたり、ぶったいします。しかるのは逆効果と思い、「優しくできるよね」と言っても、「おもちゃが欲しかったんだもん」と聞く耳を持ちません。2歳の子どもに理解してもらおうというのが無理なのでしょうか。反抗期とは分かっているのですが…

【おこたえ】

大人の常識から見て「訳が分からない」と感じる子どもの行動にぶつかると、親としては戸惑うものです。子どもに分かって欲しいと願えば願うほど、逆の結果になってしまうものです。

こんな時、むきになって「どうしてお母さんの言うことが聞けないの」などとやけを起こさないで下さい。お子さんは、お母さんなしでは生きていきません。自分の欲しい物を買ってもらおうと泣きわめく子も、お母さんが子どもを置いて立ち去ろうとすると、泣きながらお母さんの後を追いかけます。

お子さんの「わがまま」「身勝手な行動」は、わざと無理難題を投げかけて親を困らせていると考えるよりも、そのことで親の愛情を確かめる、どこまで許してくれるか探りを入れる、といった側面が隠れていることも忘れないで欲しいのです。いつも親に言うことを聞いてもらい、何をやっても許されるという状態になると、親の本音がかえって分からなくなり、不安になって、困らせるようなことをエスカレートさせる場合もあるのです。

もし、親の立場から見て、将来身につけて欲しくない態度がお子さんにあつたら、それはいけないことだからやめなさい、と親の気持ちを正直にぶつけることも大切です。

「そんなことをする子はお母さんは嫌いです」とはっきり宣言することも必要なのです。親のはっきりした拒否のおかげで、自分の気持ちに踏ん切りがつくということもあるのです。

もちろん、親のこうした拒否の態度はあまり乱発するものではありません。親が自分をかわいがってくれるという確信が子どもの側にあれば、長い目で見た時、こうした親の態度が子どもを自立させるのです。

園児制服値段表（参考）

S～LLサイズの値段表です。

男児	女児
ブレザー 6,447円	
男児半ズボン 2,134円	女児スカート 3,003円
長トレパン 1,890円	
短パン 1,340円	
幼稚園カバン（青） 2,298円	幼稚園カバン（ピ） 2,298円
絵本カバン（青） 950円	絵本カバン（赤） 950円
夏帽子 1,243円	
冬帽子 2,453円	
園章 無料	
合計金額（参考）	合計金額（参考）
18,755円	19,624円

- * 3L, 4L・別寸サイズは上記の値段とは違います。若干高くなります。
- * 各1枚購入の金額です。
- * 成長に伴う買い替えは随時出来ます。
- * 園章ワッペンのみ購入できます。（600円）